

ヒューマンコミュニケーショングループ  
**Human Communication Group**

ニューズレター

2003 年度 No. 1

URL : <http://www.ieice.org/hcg/jpn/>

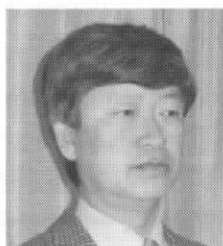
**Contents**

- ・ 新運営委員長挨拶
- ・ HCG ロゴ募集
- ・ ヒューマンコミュニケーション賞の創設
- ・ 英文論文誌 D 特集号 論文募集
- ・ ACM CHI 2003 報告
- ・ 研究会・関連行事カレンダー

グループ活動の  
さらなる活性化をめざして

平成 15 年度ヒューマンコミュニケーショングループ運営委員長

西田正吾 (大阪大学)



ヒューマンコミュニケーショングループは、電子情報通信学会における唯一の「グループ」として、8 年間活動を続けてきました。グループ

の位置付けは、学会規則により「ソサイエティに準ずる研究集団」として、理事会の議決を経てグループをおくことができる(規則、第70条)となっておりますが、我々としては、ヒューマンコミュニケーションという視点を軸に、最近注目を集めている横断型の活動を、電子情報通信学会内部のソサイエティおよび他の学会や文系の学会と連携した形で進めてきたつもりです。特に、ヒューマンコミュニケーションの研究分野は、人間中心の科学や技術がその核となっており、文理融合型アプローチが不可欠の分野です。そのような意味で、4つの第1種研究会、1つの第2種研究会、1つの第3種研究会を中心に、学会内部だけでなく外部をも巻き込んだ形で学際的な研究活動の場を提供できたことは、それなりの意義があったのではないかと考えられます。また学会全体の立場でいうと、第2、第3のグループが出てきて、我々とは違った視点で、ソサイエティ間や外部との連携を強めていく活動が生まれてくるのが重要ではないかと考えております。

ヒューマンコミュニケーショングループの今後の方向性については、6月に開催された拡大運営委員会で夜遅くまで議論されましたが、基本的には、「現時点では、ソサイエティ化は特に視野に入れず、ソサイエティ間の横断型活動、学会外部との連携による学際的活動を深めて、ヒューマンコミュニケーション分野の研究活動を今まで以上に活性化していきたい」ということでコンセンサスが得られました。具体的な活性化の方策としては、今年度以降以下のような取り組みを行う予定にしております。

- (1) ヒューマンコミュニケーショングループのロゴの募集
- (2) ヒューマンコミュニケーション賞の創設
- (3) 論文誌におけるヒューマンコミュニケーション特集号の企画の推進
- (4) 国際化の推進

特に(3)につきましては、ヒューマンコミュニケーショングループに関連するソサイエティ(特にAとD)の御協力をいただく必要がありますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。最初にも述べましたように、ヒューマンコミュニケーションという分野は、人間科学、社会科学、情報通信工学のインタセクションとして定義される学際的分野で、高度ネットワーク化社会においては今後ますますその重要度は増していくものと思われます。学会会員の皆様には、是非ヒューマンコミュニケーショングループに御登録いただき、積極的に活動に御参加いただければ幸いです。

## ヒューマンコミュニケーション グループのロゴ募集

ヒューマンコミュニケーショングループでは、その認知度を高めるためにロゴを募集します。「ヒューマンコミュニケーション」、「分野横断」、「まだ小さくこれから育つ」、といったイメージにつながるロゴを作ってください。優秀作品にはヒューマンな記念品を贈呈します。

### 【要領】

- 一応募締切 2003 年 9 月末日
- 一選考 HCG 運営委員会にて選考
- 一データ形式 BMP (横 800 画素程度)
- 一結果通知 HCG ホームページ  
<http://www.ieice.org/hcg/jpn>  
及びニュースレターにて発表
- 一用途 最優秀作品は HCG 関連の印刷物、ホームページなどにて広く利用
- 一応募先・問い合わせ先・電子メールで  
電子情報通信学会 HCG 担当 川合宛  
[s-kawaai@ieice.org](mailto:s-kawaai@ieice.org)

### 【注意】

- \*利用にあたりその権利は電子情報通信学会に帰属します(大きさや色などを変更した利用もありえます)。
- \*オリジナルの作品に限ります。

## ヒューマンコミュニケーション グループ賞の創設

ヒューマンコミュニケーショングループでは、傘下の4つの第1種研究会(HCS, HIP, MVE, WIT)で発表された論文の中から、優秀なものを選んで「ヒューマンコミュニケーション賞」として表彰する制度を発足させました。具体的には、第1回ヒューマンコミュニケーション賞は、平成15年1月-12月に上記4つの研究会に直接申し込まれ、発表された論文を対象に平成16年3月のHCG大会で表彰式を行う予定にしております。今後、発表される論文も対象となり

ますので、是非HCG傘下の研究会への積極的な論文投稿をお願いいたします。なお、表彰規程等、詳細につきましては、改めてニュースレターおよびホームページに掲載する予定です。

## 電子情報通信学会英文論文誌D ヒューマンコミュニケーション 特集号 論文募集

ヒューマンコミュニケーション関連の研究成果の発掘、海外に向けた情報発信を目的として、英文論文誌Dにて「ヒューマンコミュニケーション」特集号(2004年6月号)を企画いたしました。幅広い分野からの多数の方々の積極的な御投稿を期待しております。

### 【対象分野】

ヒューマンコミュニケーション基礎、ヒューマン情報処理、マルチメディア、仮想環境、福祉情報工学、手話情報学、インタラクションによる知識の創生、その他ヒューマンコミュニケーション全般

### 【論文の執筆と取扱い】

通常の英文論文と同一とします(但し、原則刷り上がり8ページ以内)。詳細は Information for Authors (<http://www.ieice.org/> よりご覧になれます)を御参照ください。また、論文の表紙に「ヒューマンコミュニケーション特集号」と朱記してください。査読後の再提出期間(通常は60日)を短縮する場合があります。

### 【論文投稿締切日】

2003年10月10日(金曜日)必着

### 【原稿送付先および問い合わせ先】

560-8531 大阪府豊中市待兼山町1-3  
大阪大学 大学院基礎工学研究科 加藤博一  
Tel: 06-6850-6381 Fax: 06-6850-6341  
[kato@sys.es.osaka-u.ac.jp](mailto:kato@sys.es.osaka-u.ac.jp)

### 【付記】

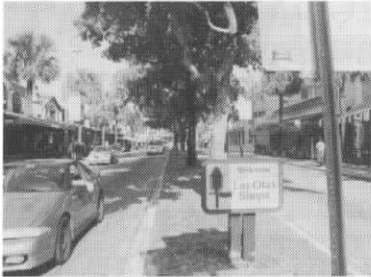
- \*締め切りを厳守して下さい。郵送の場合にも締め切り日に間に合うようにして下さい。
- \*論文採録の場合は掲載料が必要となります。

## 第 8 回 HCG 大会報告

相澤清晴 (東京大学)

ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) では、毎年恒例となっているグループ大会をこの 3 月 18, 19 日, 21, 22 日に総合大会と会場を同じくして東北大学にて開催した。HCG 傘下の 4 研究会に加え、インタラクションによる知識の創生第 2 種研究会の企画講演、そして「エンターテインメントコンピューティング」のシンポジウムを特別企画として行った。総合大会に半分重なるように日程を設けたこともあり、57 件もの研究発表が行われ、多くの参加者による活発な質疑が行われた。特に特別企画シンポジウムは特に多数の参加があり、新しい分野への取り組みが注目された。当日の 7 名の講演者とその演題はホームページ <http://www.ieice.org/hcg/jpn/plan/taikai-prg.html> を参照されたい。なお、次回は 04 年 3 月 25, 26 日に総合大会と日程を半分重ねて東工大で行われる予定である。

## 共催イベント報告 ACM CHI 2003 杉本雅則 (東京大学)



フォートローダデルの町並み

ACM 主催の国際会議である CHI2003 (日本では、HCG が唯一の共催団体) が、4 月 5~10 日に、米国フロリダ州フォートローダデルにて開催された。開催地は、米国のベニスと呼ばれ、温暖な気候、港や運河に停泊するヨットやプレジャーボートで有名である。イラク戦争のせいか、昨年よりも参加者数がやや減少した(約 1,600 名)ものの、この分野で最高の規模とレベルにあることに変わりはない。特に、論文採択率は、過去最難関 (6 倍以上) であった。論文発表は 3 つの並列セッションで構成され、パネ

ルセッション等と併せて合計 5~6 つの並列セッションとなっていた。以下では、筆者が聴講した発表からいくつかを紹介する (プログラム等が <http://www.chi2003.org/> に掲載されている)。

### ● Input/Output for Mobile Devices

PDA や携帯電話などの携帯端末の普及に伴い、その入出力技術が重要となっている。入力技術に関しては、パターン認識により単語を 1 筆書きのように連続的に入力する手法、PDA に搭載した小型プロジェクタでキーボードを机に投影し、指の動きを赤外光反射で捉えてキー入力を認識するシステム、PDA の物理的な動きを検出し、そのディスプレイを覗き窓のように使うシステム Peephole Displays などが発表された。一方、出力に関しては、魚眼効果を用いたカレンダーシステム DateLens や、円弧の曲率を用いて地図上で画面外の目的地までの距離を分かり易く表示するシステム Halo の発表があった。他にも、PDA の教育への応用、携帯電話用の Web ページデザイン手法、買い物客支援のための PDA インターフェイス、などが報告された。

### ● Universal Controller, Ubiquitous Computing

この分野は、社会的にも大きな関心を集めているが、HCI の分野でも近年活発に研究が行われている。携帯端末で家電を制御する際、ユーザや対象機器に応じたインターフェイスを表示できるシステムや、動きや方向を検出するセンサを取り付けた wand (杖) によって機器を制御したり universal pointer として利用できる Xwand、コンピュータを埋め込んだ様々な人工物を介して情報機器を操作可能にする iStuff のソフトウェアアーキテクチャなどが報告された。

### ● Mixed Reality

Mixed Reality は、HI 技術としてのみならず、エンターテインメント、福祉等、その応用は多岐に渡る。体の動きをカメラで認識し、仮想空間のナビゲーションを支援する Gesture+Play や、ホワイトボード上の手書き図形をカメラで認識し、その図形を基に仮想世界でのエージェントの振舞いを変化させるシステム PenPets (協調作業や教育への応用が可能とのこと)、実物の PostIt を電子的に操作可能にし、Web ページデザインの協調作業を支援するシステム Designers' Outpost における、分散グループ間の awareness 支援技術、などが報告された。他にも、スポーツを介したコミュニケーション支援

システムや、現実の都市空間でPDA、GPS、無線LAN等を用い、実ユーザ、仮想ユーザが参加するゲームなどの発表があった。

紙面の都合上、紹介できたのは全体のごく1部である。HCI研究は多岐に渡っているせいか、技術的に優れているもの、思想的な深みを感じ

るものから、「???」的なもの、など様々であった。しかし、いずれも個性的な発表ばかりで、聞いていていろいろと参考になったことは間違いない。なお、次回のCHIは2004年4月24～29日にウィーン(オーストリア)にて開催される予定である。

## ヒューマンコミュニケーショングループ研究会・関連行事カレンダー

詳しくは、HCG ホームページ <http://www.ieice.org/hcg/jpn/> をご覧ください。

### — 2003年9月 —

- ★第2回情報科学技術フォーラム(FIT2003)  
【期日】2003年9月10日(水)～12日(金)  
【会場】札幌学院大学
- ★ヒューマンコミュニケーション基礎(HCS)研究会  
【期日】2003年9月27日(土)  
【会場】国立科学博物館分館(新宿)  
【題目】顔とコミュニケーション  
(顔学会大会内セッション)  
【共催】日本顔学会

### — 2003年10月 —

- ★マルチメディア・仮想環境基礎(MVE)研究会  
【期日】2003年10月6日(月)～7日(火)  
【会場】NHK放送技術研究所(講堂)  
【題目】エンターテインメントと仮想環境  
【共催】日本バーチャルリアリティ学会  
エンターテインメントとVR研究会(SIG-EVR)
- ★福祉情報工学(WIT)研究会  
【期日】2003年10月30日(木)～31日(金)  
【会場】千葉工業大学  
【題目】福祉と音声処理、一般  
【共催】SP研究会
- ★インタラクションによる知識の創生(KCI)研究会  
【期日】2003年10月  
【会場】未定  
【題目】第5回「相互作用と賢さ」合同研究会

### — 2003年11月 —

- ★ヒューマンコミュニケーション基礎(HCS)研究会  
【期日】2003年11月7日(金)  
【会場】大阪大学  
【題目】ノンバーバルコミュニケーション
- ★マルチメディア・仮想環境基礎(MVE)研究会  
【期日】2003年11月13日(木)～14日(金)  
【会場】大阪大学  
【題目】ウェアラブル・ユビキタス・モバイル  
【共催】IN、MoMuC研究会
- ★ヒューマン情報処理(HIP)研究会  
【期日】2003年11月20日(木)～21日(金)  
【会場】新潟大学

- 【題目】顔とジェスチャの認識、一般  
【共催】PRMU研究会

### — 2003年12月 —

- ★手話情報学(SiLE)研究会  
【期日】2003年12月5日(金)  
【会場】工学院大学
- ★ヒューマン情報処理(HIP)研究会  
【期日】2003年12月中旬  
【会場】東北大学  
【題目】感性情報処理の基礎と応用、一般  
【共催】東北大学電通研音響工学研究会
- ★インタラクションによる知識の創生(KCI)研究会  
【期日】2003年12月  
【会場】未定  
【題目】第6回「相互作用と賢さ」合同研究会

### — 2004年1月 —

- ★ヒューマンコミュニケーション基礎(HCS)研究会 & ヒューマン情報処理(HIP)研究会 & 福祉情報工学(WIT)研究会  
【期日】2004年1月22日(木)～23日(金)  
【会場】名古屋市産業記念館  
【題目】自動車・ITS(仮)  
【共催】HI学会

### — 2004年2月 —

- ★マルチメディア・仮想環境基礎(MVE)研究会  
【期日】2004年2月  
【会場】未定  
【題目】サイバースペースとコミュニケーション  
【共催】CQ研究会、映像情報メディア学会

### — 2004年3月 —

- ★インタラクション2004  
【期日】2004年3月4日(木)～5日(金)  
【会場】未定  
【主催】情報処理学会(HCG協賛イベント)
- ★ヒューマンコミュニケーショングループ大会  
【期日】2004年3月25日(木)～26日(金)  
【会場】東京工業大学(予定)  
【備考】総合大会は、同じく東京工業大学にて3月22日(月)～25日(木)開催予定